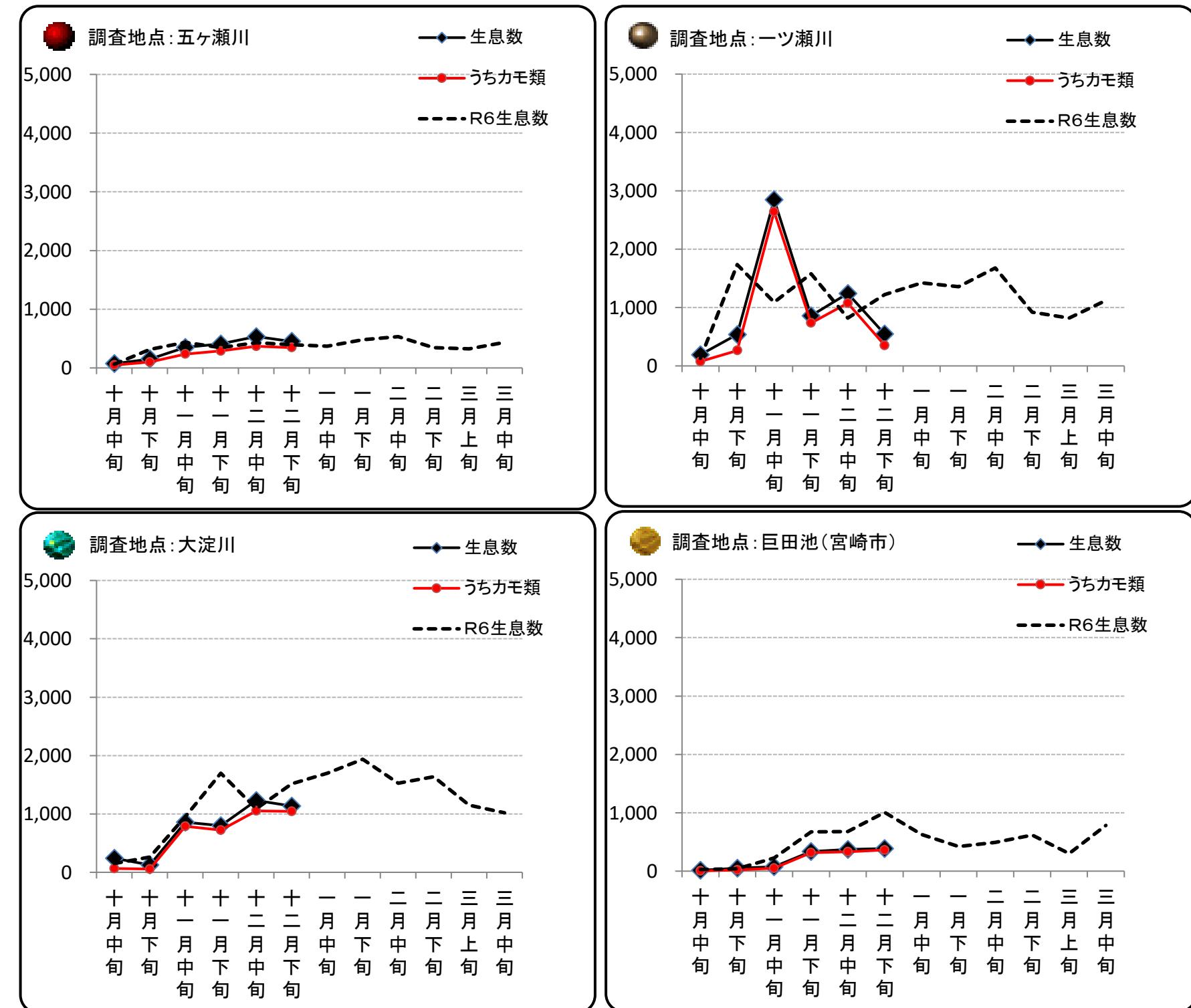


宮崎県内の野鳥生息状況調査



調査委託：日本野鳥の会宮崎県支部



令和7年度宮崎県野鳥生息状況調査

調査委託先：日本野鳥の会宮崎県支部

調査箇所	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川	合計
調査日	10/11/2025	10/10/2025	10/10/2025	10/10/2025	
生息（飛来）数	193	15	239	72	519
うちカモ類	77	4	65	48	194
うち猛禽類	29	0	5	1	35

概要

- カモの渡りは始まったばかりだが、コガモ、カルガモが多く、少ないながらもヒドリガモ、マガモ、オナガガモが見られた。
- 猛禽類では、留鳥のトビの他、ミサゴ、チョウゲンボウ、ハヤブサなどが見られ始めた。
- アオサギは一ツ瀬川河口、大淀川で多く見られた。
- 全体的にはほぼ昨年並みであるが、大淀川の飛来数が昨年より若干多い。その分、飛来数の合計も多くなっている。

調査箇所	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川	合計
調査日	10/24/2025	10/27/2025	10/24/2025	10/26/2025	
生息（飛来）数	538	52	126	152	868
うちカモ類	264	20	56	101	441
うち猛禽類	20	0	2	3	25

概要

カモの数は前回調査の227%に増えたが、前年同期の26%であり、渡りが遅い。
調査種全体でも前年同期比36%であり、カモ類以外の冬鳥も渡りが遅い印象がある。

猛禽類は冬鳥として渡ってきた種は見られなかった。

調査箇所	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川	合計
調査日	11/14/2025	11/14/2025	11/14/2025	11/14/2025	
生息（飛来）数	2,847	76	860	350	4,133
うちカモ類	2,643	50	786	237	3,716
うち猛禽類	22	0	2	4	28

概要

カモの飛来が増加し特にヒドリガモが多くなった。また、前回まで見られなかったカンムリカツブリも確認された。11月になってカモの数は急に増え、前年同期の165%である。

猛禽類は冬鳥として渡ってきた種はハイタカ、チョウゲンボウなどが見られた。

巨田池の下池は、まだハスの枯葉が全面を覆っていてカモの群れは飛来していない。

調査箇所	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川	合計
調査日	11/27/2025	11/28/2025	11/28/2025	11/28/2025	
生息（飛来）数	861	335	797	409	2,402
うちカモ類	736	316	722	291	2,065
うち猛禽類	13	1	1	14	29

概要

カモの数が前回の56%に減少した。前年同期と比較しても57%と少ない。

前回、非常に増えていたヒドリガモが激減した。

検査優先種の羽数合計が前回の約半数になり、過去10年の同期では最も少ない。

調査箇所	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川	合計
調査日	12/14/2025	12/12/2025	12/12/2025	12/14/2025	
生息（飛来）数	1,240	370	1,231	535	3,376
うちカモ類	1,077	333	1,052	369	2,831
うち猛禽類	56	3	3	3	65

概要

先月中旬に急に増えたカモの数が下旬に減少し、今回また増えてきて前年同期と同じくらいになった。

オオタカ、チュウヒ、ノスリ、チョウゲンボウなどの冬鳥の猛禽類が出現し始めた。

検査優先種の羽数合計がほぼ前年並みになっている。

調査箇所	一ツ瀬川	巨田池	大淀川	五ヶ瀬川	合計
調査日	12/28/2025	12/26/2025	12/26/2025	12/27/2025	
生息（飛来）数	545	387	1,136	452	2,520
うちカモ類	352	362	1,043	347	2,104
うち猛禽類	29	1	3	2	35

概要

全体的にカモの数が若干減少した（前回比74%）。前年同期比の58%である。

巨田池にトモエガモの群れが飛来している。

（綾川上流のダムでは約1,000羽近くのトモエガモの群れが観察されている）

検査優先種の羽数合計は前回より約800羽少なくなった。